

【武元・氏女屋地売券】

うりわたすこの糸あふらのこうちの  
地一所事

合壹所、口二丈面、にしをかきるついし口、

ひんかし内、ミなミをかきる、

おく十四ちやう、みなミハこのへおうち、

きたをかきるたけ、

在、このへあふらこうち、あふらこうちよりにし、  
このへおもてきたのつら

右、件地ハうりぬしふちわらのうち女ちう

たいさうてんのち也、しかるを、よう、あるに

よて、本せん十三くわんもん、ほんせうもん七つ

あひくして、どうないさ糸もんとのにうり

わたしたてまつるしち也、さらにたのさ

またけあるへからす、せん二もしこのちにつけ

ていらんあらハ、そのわつらいの時ハ、武元か

うりぬしふちハらの女あひどもに、あ

きらむへし、時によりて、くけふけ□□き

御とくせい、てきたるとも、さらにその

おもふきによるへからす、もし又うりぬ

しのしそのんの中、ふてうのともからいて

きたり、もんそありとかうして、ふれう

のさたいたさんともからあらハ、すなハち

さいくわん二おこなわるへきもの也、よてこ日

のために、うりけんのしやう如件、

(嘉元)  
かけん三年十二月廿二日  
(二三〇五)

武元(花押)  
うちの女(花押)